

# 耕平さんかわら版

発行編集部

大塚耕平事務所

☎052-757-1955

Kouhei@oh-kouhei.org



皆さん、こんにちは。春本番です。ゴールデンウィークになると初夏の陽気。早いですねえ。

お釈迦様の大切な教え、生きることで向き合うための四つの鍵、「苦諦(くたい)」「集諦(じつたい)」「道諦(どうたい)」「四諦(しいたい)」。先月までの内容、ご記憶にあるでしょうか。

さて、欲や執着を制御(コントロール)することができるようになるための道、つまり修行や精神修養のことを指す「道諦」。その具体的な方法が「八正道(はっしょうどう)です。

八正道は、正見(しょうけん)、正思惟(しょうしゆい)、正語(しょうご)、正業(しょうごう)、正念(しょうねん)、正定(しょうじょう)、正精進(しょうじょうじん)の八つ。

難しく考えないでください。文字の意味を素直に受け止めるだけです。

①「正見」は正しい見解を理解すること。この場合の見

解はお釈迦様の四諦の教え。お釈迦様の教えを正しく理解しようということです。

②「正思惟」は邪(よこしま)な考えをもたないこと。

③「正語」は嘘や悪口を言わないこと。悪態をつかないことを意味します。

④「正業」は殺生や盗み、悪いこと、邪なことはしないこと、邪なことはしないという当たり前のことを言っています。

⑤「正命」は節度ある規則正しい生活をして、健康と命を大切にすること。

⑥「正念」は正しい心を忘れないこと。

⑦「正定」は邪な心を取り払い、集中し安定した心の状態に保つこと。

⑧「正精進」は悟りに向かって、一生懸命努力すること。上記の七つの実践に向けて努力することと言ってもよいでしょう。

「なんだ、そんなことか」という感想と「いやあそれでもないよお」という感想。どちらも理解できますが、あなたはどうでしたでしょうか。

この八つは「戒(かい)」「定(じょう)」「慧(え)」の三つに分けられます。①②が「慧」、③④⑤が「戒」、⑥⑦が「定」、⑧は他の七つの全体にかかり、「戒定慧」は「三学」と呼ばれることもあります。要するに、ごくごく当たり前の人間としての心構え、言動を実践すること。そのことが欲や執着を制御することにつながるかと教えてくれています。

でも、実はそれが簡単ではありません。だから、みんな悩み、苦しむのです。「四諦八正道(したいはっしょうどう)」、ちよっと心に留めておいてください。

みんなが四諦八正道を実践できれば、争いごとや社会問題はかなり解決されると思います。逆に言えば、争いごとや社会問題が絶えないということは、四諦八正道を実践することが如何に難しいかということですね。それでは皆さん、また来月。

※



## かわら版執筆者 大塚耕平

日泰寺の地元、田代小学校、城山中学校を卒業。旭丘高校、早稲田大学をへて、日本銀行に18年間勤務。

2001年から参議院議員。元内閣府副大臣、元厚生労働副大臣。地元の歴史・文化遺産の継承と振興のために「弘法さんかわら版」を執筆しています。今年で、足かけ13年目。

日銀時代に母校の大学院博士課程を修了(学術博士)。現在は、早稲田大学と中央大学大学院の客員教授も務めています。

### 弘法さんかわら版

弘法大師の生涯と覚王山

第1号から第78号は、2008年に大法輪閣から本になって出版されました。

好評発売中

大法輪閣

(仏教書の老舗出版社)

営業部：電話 03-5466-1401

